

フォト・ジャーナリスト片山通夫のメールマガジンは現代時評、ロシア・サハリンの話題、Lapiz 編集長・井上脩身氏のコラムなど多彩な話題満載！

購読無料！

Lapiz2020 春号 3月1日発行
<https://lapiz-international.com/>

主な項目

CoverStory [アイスチューリップ]

Oikoの眼 吾孫子観音 阪堺電車

読切連載「アカンタレ勘太 4」

宿場町「大垣宿」 神宿る。三国神社の大櫓
などなど

【著書案内】

《サハリン逍遥》 片山通夫写真集

サハリン残留朝鮮人の取材のため15年間サハリンに通った写真家が自然や人々の暮らしを折にふれて撮りためた素顔のサハリン。さり気ないアプローチでとらえた被写体にユーモラスな文章をそえた魅力的な写真集。

群像社刊 モノクロ 152 ページ、予価 1800 円+税

群像社サイトからお買い求めいただけます！！
<http://gunzosha.cart.fc2.com/ca8/198/p-r-s/>

サハリン逍遥が電子ブックになりました！
<http://www.shinanobook.com/genre/book/3775>

◇◇現代時評《不当検察介入が招いた醜態》
～造船疑獄に見る政権の末期現象～

井上脩身

東京高検の黒川弘務検事長が賭けマージャンをしていたことが発覚、黒川氏は5月22日、辞職した。黒川氏については今年1月、安倍晋三首相が検事総長に昇任させる布石として強引に定年を延長、その正当化の後付けとして検察庁法改正案を今国会で成立させようとしていた。世論の猛反発にあって改正案成立を見送った直後の黒川事件である。検察幹部としての失格者を検事総長にしようとした安倍首相の政治責任は重大である。だが問題はそれだけにとどまらない。政権が検察人事に手を突っ込んだ検察介入そのものが問われねばならない。政権の検察介入として戦後史に刻まれている造船疑獄での指揮権発動と今回の検察介入を比較検討すると、安倍政権が末期状態であることが鮮明に浮かび上がる。

造船疑獄は1954(昭和29)年1月、東京地検特捜部が山下汽船専務らを商法の得別背任容疑で逮捕したことから、海運・造船業界と政界との癒着が表面化した一大汚職事件。捜査は政界幹部に迫り、自由党の佐藤栄作幹事長が船主協会、造船工業会から各1000万円を自由党に供与させた第三者収賄と、飯野海運社長から200万円を受け取った受託収賄の容疑があるとして同年4月20日、佐藤・藤佐・検事総長は犬養健法相に逮捕許可を求めた。犬養法相は吉田首相と会議し、翌21日、佐藤検事総長に対し、佐藤幹事長逮捕を暫時延期するよう指示した。検察庁法14条に基づく指揮権発動である。この4カ月後、吉田首相は自由党支部長会議で、「(幹事長が逮捕される)ことになれば、幹事長になり手がなくなる。党に資金を寄付するものもなくなり、政党政治の破壊になる。これが政府の指揮権発動のゆえん」と語った(渡邊文幸『指揮権発動——造船疑獄と戦後検察の確立』信山社)。

検察庁法14条は「法務大臣は検察官の事務に関し、検察官を一般に指揮監督することができる。但し、個々の事件の取調又は処分については検事総長のみを指揮することができる」と規定している。検察官は総理大臣をトップとする国の行政機関の一員であるとともに、総理大臣をも逮捕、訴追できるという独立した司法機関の一員でもある。同法14条は相矛盾する微妙な官吏であることを示したもののだが、検事総長を指揮できるとしたこの但し書きが、政府に事件をもみ消す権能を与えることとなった。造船疑獄では指揮権発動によって事件は尻すぼみになり、逮捕された贈賄側の容疑者は次々に釈放された。検察官の序列は検事総長をトップに次長検事、検事長、検事とつづく。検事長以上の任命には天皇の認証を要する認証官だ。普通の国民からみれば検事長は検事総長と同様、とん

でもなく偉い人だが、政府からみれば検事総長は重大事件に際し、「大臣の指揮を受けるただ一人の人」であって、検事長とは格段に異なる特別な存在だ。

伊藤栄樹・元検事総長は法務大臣と意見が対立したときの検事総長のとるべき態度について(1)不服ながら法務大臣の指揮に従う(2)大臣の指揮に従わず、部下にこれに反する指揮をする(3)官職を辞する——の三つのケースを挙げる(前掲書)。すねにキズがある政権ならば、(2)の大臣に盾突いてでも捜査を行うタイプでなく、(1)の従順な人物を検事総長に据えようとするだろう。事実、造船疑獄では佐藤検事総長は「大臣が指揮できると法律に書いてあるのだから、従うのは当然」という態度だったという。

現在問題になっている検察庁法改正案は、検事総長の定年を現行の65歳から68歳に延長し、検事長については63歳の役職定年を66歳まで延ばす、という内容。さらに検事総長と検事長は内閣の判断で1年を超えない範囲で期間を延長(最長3年)できるという特別規定も設定。これが世論の反発をかい、「恣意的に人事を行うためのもの」と、SNSに批判の投稿が数百万点も殺到、安倍首相が改正案の強行成立を断念することとなった。この改正案は黒川検事長の定年を延長した理由の後付けであることはすでに述べた。黒川氏は今年2月7日、検事長の定年を迎えた。しかし安倍首相は閣議で定年を半年間延長し8月7日とした。今年7月に定年になる稲田伸夫検事総長の後任とするためであることは紛れもない。さらにこの改正案が成立すると黒川氏は少なくとも68歳まで、さらに内閣の意向で最大71歳まで検事総長の座に居座れる可能性がうまれる。こうまでして黒川氏を検事総長にしようとするのは、森友事件における証拠隠蔽のための公文書偽造など、すねにキズだらけの安倍政権にとって、官房長、事務次官として7年余り国会対応を担ってきた「政権に従順な能吏」だからであろう。イザというとき、黒川検事総長なら政権を守ってくれる、というわけだ。

しかし検察介入をした政権のお先は真っ暗である。造船疑獄では、指揮権発動の翌日、犬養法相が辞任。その翌日、野党が内閣警告決議案を参院に提出。否決されたが、吉田首相の支持率が23%に低下、不支持が48%と倍増した。日本経営者団体連盟(日経連)も同年10月の臨時総会で「政局安定が急務」との提案を採択、事実上吉田首相の退陣を求めた。吉田首相が53日間の外遊から帰国して1週間後の11月24日、日本民主党が結成されて鳩山一郎氏が総裁に就任。12月6日、民主、左右社会党共同で内閣不信任案が提出され、吉田内閣は総辞職した。

こうして第1次(1946年5月～1947年5月)から第2～第5次(1948年10月～1954年12月)にわたる6年2カ月の長期政権は幕を閉じた。安倍首相は長期政権であるうえ、短期間の第1次と第2次以降の長期に分かれるという点では吉田政権とよく似ている。安倍首相が検察介入をして黒川氏を検事総長に就けようとしたのは、自分も指揮権を発動したいと考えていたからなのかもしれない。

ところが、ここにきて黒川事件である。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が出ているなか、東京都内の産経新聞記者宅で賭けマージャンをしていたと『週刊文春』が報道。黒川氏は法務省の事情聴取に現金をかけてマージャンをしたことを認め、辞職した。森雅子法相は黒川氏を訓告処分にした。しかし刑法の賭博罪に当たることは明白であり、訓告という軽い処分ですませるのは安倍政権の政治感覚が麻痺している証拠である。

立憲民主党の安住淳国対委員長は「(検事長の定年延長を)『余人をもって代えがたい』とした任命者の責任を問わなければならない」と述べた(5月21日付毎日新聞)ように、首相の恣意的な人事を通して行った検察介入こそ徹底追及されねばならない。吉田政権は指揮権発動後、一気に求心力を失い、8カ月後、政権は崩壊した。安倍首相の支持率も、新型コロナウイルス感染対策が後手後手に回っていることなどから急降下しており、与党内からささ「末期症状」の声が出ている。黒川氏の醜態は末期状態の象徴的現象といえるだろう。一強を誇った安倍政権の崩壊はもはや時間の問題である。

◇◇609studio が読んだニュース◇◇

コロナ騒ぎのおかげで長くなりますので、次回からはこの項は609studioのホームページに移行します。今週から試行してゆきます。お手数ですが以下をクリックしてください。

<https://bit.ly/36cCt6S>
もしくは
<https://www.609studio.com/>

各国のニュースサイトを紹介する。
お時間があるとき、「同じニュース」を我が国と各国のそれを見比べてほしい。

フォーカス台湾 <http://japan.cna.com.tw/>
CNN <https://www.cnn.co.jp/>
スプートニク <https://jp.sputniknews.com/>

聯合ニュース <https://jp.yna.co.kr/>
AFP <https://www.afpbb.com/>
BBC <https://www.bbc.com/japanese>

NHK 特設サイト
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/>

◆編集長から: 片山通夫

発行 2020年5月26日 No.952

発行 毎週火曜日 購読料無料
website <http://www.609studio.com/>
FB <https://www.facebook.com/michio.katayama.5>

配信 まぐまぐ配信システム ID:0000052236
メールマガジン登録・解除 <https://www.mag2.com/m/0000052236.html>

◇禁・無断転載◇
